



翌シーズンに向けて松を割る鵜匠（関市小瀬）

第 7 章

計画期間に実施する事業

第1節	事業の実施計画……………	76頁
第2節	評価の方法……………	80頁



第1節 事業の実施計画

第5章で文化財の保存活用の基本方針を示し、第6章で基本方針に基づく具体的な措置を「保存」「活用」「調査研究」ごとに示した。

本章では、今後実施すべき全ての措置の中から、計画期間に優先的に実施する措置（第6章で優先度に★をつけた措置）を抽出し、実際に取り組む事業の実施計画を示す。第1章第4節で示したとおり、計画期間は令和3年度（2021）から令和7年度（2025）までの5年間とし、この期間に行う13件の措置に対応する10件の事業を計画した。

＜措置と事業の対応表＞

措置		事業
保存	鵜匠家支援の仕組みづくり	①岐阜長良川鵜飼保存会制度改革
	保存会の役割強化	
	後継者育成のための記録作成	②後継者育成のための記録映像制作事業
	船頭の技術向上	③船頭養成事業
	鵜舟の安定供給	④用具の修理・新調事業
	後継者の確保及び育成	
	情報のリスト化	⑤職人・事業者リスト作成事業
活用	市民ガイドの育成	⑥小瀬鵜飼市民ガイド育成事業
	オンラインイベントの開催	⑦「川文化スクール」開催事業
	ガイダンス施設の機能強化	⑧川合玉堂作「鵜飼」クローン文化財作成事業
調査研究	地域固有性を明らかにするための調査研究の推進	⑨全国鵜飼習俗基礎調査
	市民参加型の調査研究体制の構築	⑩写真・映像の収集と整理事業
	写真・映像の収集と整理	



＜実施計画＞

①岐阜長良川鵜飼保存会制度改革

実施主体：岐阜長良川鵜飼保存会、岐阜市

事業期間：令和3～5年度

事業内容：令和3年度に岐阜長良川鵜飼保存会の事務局を再整備し、鵜飼漁の保存活用に必要な体制を構築する。

以降、保存会への財政的支援や人的支援を受け入れることのできる組織づくりを継続する。

財 源：岐阜市、国補助 等

②後継者育成のための記録映像制作事業

実施主体：関市、小瀬鵜飼保存会

事業期間：令和4～5年度

事業内容：関市では、今まで観光振興を目的とする鵜飼漁の撮影は行われてきたが、鵜匠や船頭目線の技術継承を目的とした撮影は行われていない。後継者育成を目的とした鵜匠や船頭の技術を撮影し、記録映像を制作する。

財 源：関市、国補助 等

③船頭養成事業

実施主体：「長良川の鵜飼漁の技術」保存活用協議会

事業期間：令和4～6年度

事業内容：岐阜市民・関市民を対象に、新たに船頭を志す人を募集し、経験豊富な船頭による指導のもと、長良川で1年間かけて操船技術等の訓練を行う（実地訓練は岐阜市長良と関市小瀬で個別に実施）。訓練終了後は、鵜舟または鵜飼観覧船の船頭として活動し、経験を積み重ねながら、技術向上を目指す。

財 源：岐阜市、関市、国補助 等

④用具の修理・新調事業

実施主体：岐阜長良川鵜飼保存会、小瀬鵜飼保存会

事業期間：令和3～8年度 ※計画期間を越えて実施

事業内容：鵜飼漁の技術を継承するために必要な用具の修理・新調を行う。用具は、毎年使用すると消耗が激しいため、鵜匠の要望を踏まえながら随時修理・新調を行う。また、事業を通じて、製作者の需要創出や後継者の確保及び育成を図り、用具の安定供給に向けた体制を構築する。

財 源：岐阜長良川鵜飼保存会、小瀬鵜飼保存会、国補助 等

⑤職人・事業者リスト作成事業

実施主体：「長良川の鵜飼漁の技術」保存活用協議会

事業期間：令和3～7年度

事業内容：道具を供給する職人や素材等を供給する事業者の情報について、鵜匠全員からの聞き取りをもとにこれまでの取引相手を把握する。また、今後新しい取引相手も開拓する。得られた情報をまとめてリストを作成し、毎年更新する。

財 源：なし

⑥小瀬鵜飼市民ガイド育成事業

実施主体：関市

事業期間：令和5～7年度

事業内容：小瀬鵜飼を案内する市民ガイドを育成する。鵜匠の協力を得て、鳥屋などの見学をガイドできるように育成する。また、課程の中で、小瀬鵜飼の近くにある弥勒寺官衙遺跡群や円空を学ぶことのできる講座も設定し、周辺の歴史環境もガイドできるように育成する。

財 源：関市、国補助 等

⑦「川文化スクール」開催事業

実施主体：岐阜市、民間

事業期間：令和4～7年度

事業内容：長良川流域で育まれた豊かな川文化（漁法、川船、工芸、治水・利水等）をテーマに取り上げ、その魅力に触れることのできる「川文化スクール」を開催する。体験形式の講義（操船体験、釘打ち体験等）は現地で開催し、座学形式の講義は、Zoom ウェビナー等を活用してオンラインで開催する。

財 源：岐阜市 等

⑧川合玉堂作「鵜飼」クローン文化財作成事業

実施主体：関市

事業期間：令和6～7年度

事業内容：東京藝術大学が所蔵し、川合玉堂が昭和6年に描いた「鵜飼」は調査の結果、小瀬鵜飼をモデルとして描いていることが明らかとなった。この「鵜飼」を関市で展示し、市民や観光客に広く知ってもらうため、高精度な「クローン文化財」を作成する。

財 源：関市、国補助 等



⑨全国鵜飼習俗基礎調査

実施主体：岐阜市、関市

事業期間：令和3～7年度

事業内容：日本でおこなわれている他地域の鵜飼漁との比較を通じて、長良川の鵜飼漁の地域固有性を明らかにするための全国鵜飼習俗基礎調査を実施する。

財 源：岐阜市、関市 等

⑩写真・映像の収集と整理事業

実施主体：岐阜市

事業期間：令和6～7年度

事業内容：鵜飼漁に関わる古い写真や映像について、各鵜匠家が保持するものや岐阜市が保持するものを対象に収集整理し、基礎資料として今後の調査研究等に活かす。また、広報ぎふ、ホームページ、SNS 等を利用して、市民にも古い写真や映像の提供を呼び掛けるとともに、収集整理に興味関心を持つ市民を募集し、共同で作業を行う。

財 源：岐阜市 等

<年次計画>

事業	R3	R4	R5	R6	R7
①岐阜長良川鵜飼保存会制度改革					
②後継者育成のための記録映像制作事業					
③船頭養成事業					
④用具の修理・新調事業					
⑤職人・事業者リスト作成事業					
⑥小瀬鵜飼市民ガイド育成事業					
⑦「川文化スクール」開催事業					
⑧川合玉堂作「鵜飼」クローン文化財作成事業					
⑨全国鵜飼習俗基礎調査					
⑩写真・映像の収集と整理事業					

第2節 評価の方法

本計画で実施した取組の成果を評価するための方法として、アウトカム指標※を導入する。計画期間に実施した措置の効果を客観的に評価するため、5年後の目標指標を以下のように設定する。 ※アウトカム指標……政策の成果を図る指標の一つ。具体的な効果、効用を示す。

<船頭の数>

	現在値 (R2)		目標値 (R7)
岐阜市長良・鵜舟の船頭	12人	⇒	維持
岐阜市長良・鵜飼観覧船の船頭	158人		170人
関市小瀬・鵜舟の船頭	6人		維持
関市小瀬・鵜飼観覧船の船頭	14人		20人

<イベント参加者の満足度>

	現在値 (R2)		目標値 (R7)
岐阜市	未計測	⇒	80%
関市	未計測		80%

<鵜飼観覧船の乗客数>

	現在値 (R2)		目標値 (R7)
岐阜市長良	約15,000人	⇒	約115,000人
関市小瀬	約2,200人		約10,000人

<岐阜市民・関市民であることに誇りを感じる割合>

	現在値 (R1)		目標値 (R7)
岐阜市民	51.6%	⇒	55%
関市民	64.3%		67%

<観光資源が豊かなまちだと感じる割合>

	現在値 (R1)		目標値 (R7)
岐阜市民	56.4%	⇒	58%
関市民	20.4%		22%

<主要施設観光入込数>

	現在値 (R1)		目標値 (R7)
長良川うかいミュージアム	127,925人	⇒	150,000人
関市円空館	2,893人		3,037人

<市民団体の会員数>

	現在値 (R2)		目標値 (R7)
長良川鵜飼文化応援団	48人	⇒	75人
小瀬鵜飼ガイドボランティア	0人		10人